

第3期上サロベツ自然再生普及 行動計画の策定について

～エコモ一☆サポーター会議～

上サロベツ自然再生協議会再生普及部会

平成30年3月6日

上サロベツ自然再生普及行動計画



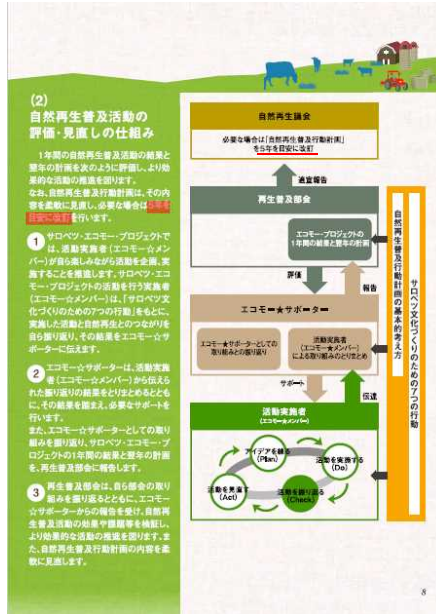
平成19年5月



平成24年6月

上サロベツ普及行動計画改訂の必要性

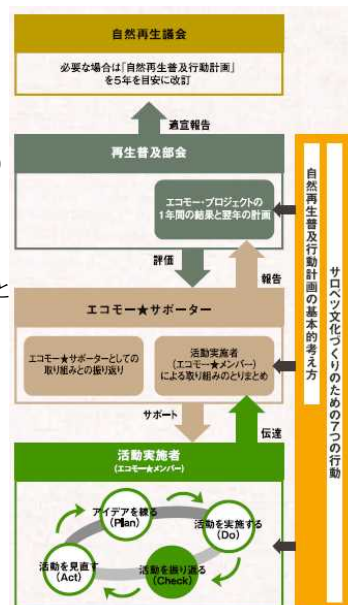
- ①自然再生を取り巻く情勢の変化
自然再生事業の進展
EMPは量から質へ
地域活性化活動との連携強化
など
- ②現在の普及行動計画は策定から
5年が経過



上サロベツ普及行動計画改訂の検討体制

エコムー☆サポーター会議において
検討を行う
(改訂のためのWGは設けません)

- ・各種活動の実践者であること
- ・これまで個々の活動をサポートしてきたこと
- ・前回の改訂WGの主要メンバーがE☆S会議にも参加



検討経過

- H29.2.15 エコモー☆サポーター（E☆S）会議
再生普及行動計画の見直し発議
- H29.3.9 再生普及部会 E☆S会議において見直しを進めることの承認
- H29.4.26 第1回検討 ガイダンス（これからの進め方）エコモーププロジェクトの分析
- H29.5.31 第2回検討 エコモーププロジェクトの分析
- H29.6.20 第3回検討 PDCA
- H29.6.23 上サロベツ自然再生協議会 普及行動計画見直しの検討開始について報告
- H29.7.17 第4回検討 サロベツ文化づくり7つの行動
- H29.8.21 第5回検討 エコモーププロジェクト
- H29.9.16 第6回検討 エコモーサポーター
- H29.11.22 第7回検討 見直しの方向性
- H29.12.18 第8回検討 次期普及行動計画（素案）提示
- H30.1.22 第9回検討 E☆S案提示
- H30.2.21 第10回検討 E☆S案決定
- H30.3.6 再生普及部会 第3期普及行動計画の検討（部会案）
- H30.5頃 上サロベツ自然再生協議会 第3期行動普及計画の正式決定

検討概要

○エコモーププロジェクトの分析（第1&2回） 課題の認識

E☆S活動の中心の一つ、エコモーププロジェクトと自然再生の関わりについて見てみた。

→ 自然再生にどのように寄与するのか、説明が難しい活動がたくさん含まれていることに気がついた。

○PDCAについて（第3回） 課題の認識

第2期普及行動計画には、普及活動の管理手法として、PDCAを用いることが書かれている。H27年度くらいから意識してPDCAサイクルに当てはめようとしていたが、正しくPDCAを使うことができていたか振り返ってみた。

→ 本来は目的達成（上サロベツ湿原の自然再生）のための手段である事柄が、目標として位置づけられているものがあつた。こうなると、「木を見て森を見ず」の状態になってしまう。自然再生にはあまり役になっていなくても、やること自体が目標とされていたところがあつた。

検討概要

○サロベツ文化づくりのための7つの行動（第4回）

原因の訴求

これまで、サロベツの文化づくりのための7つの行動に沿って取り組んできた、それが間違いだとすれば、どこに原因があるのか？

→本来、サロベツ文化づくりのための7つの行動は、「活動のきっかけ、活動を振り返る手がかり」としての位置づけである。

何のために取り組んでいるのか振り返ってみる必要

検討概要

上サロベツ自然再生全体構想における自然再生の目標

- ①湿原の自然再生
- ②農業の振興
- ③地域づくり

← 協議会の目的を達成するための手段

そもそも自然再生協議会とは何をするところ？

上サロベツ自然再生協議会規約

第2条 協議会で協議する自然再生の対象となる区域は、主として豊富町内の国立公園であるサロベツ湿原（本規約では「上サロベツ」という）とする。

第3条 上サロベツの自然再生を推進するため、必要となる事項の協議を行うことを目的とする。

検討概要

上サロベツ自然再生全体構想における自然再生の目標が本来意味すること

- ① 湿原の自然再生
- ② (湿原と共生する) 農業の振興
- ③ (湿原と共生する) 地域づくり

検討概要

○エコモープロジェクト (第5回) これからの方向性

今後のエコモープロジェクトの展開の仕方について考える。AとBのどちらの考えで取り組むべきか？

A 上サロベツ湿原の自然再生のための活動に厳選して展開する。

B これまで同様 (これまで以上) に幅広い活動を網羅しながら展開する。

前提条件; Bを選ぶ場合には、事業官庁(国・道)の主導的関与の継続は難しく、地元中心で取り組まなければならない。

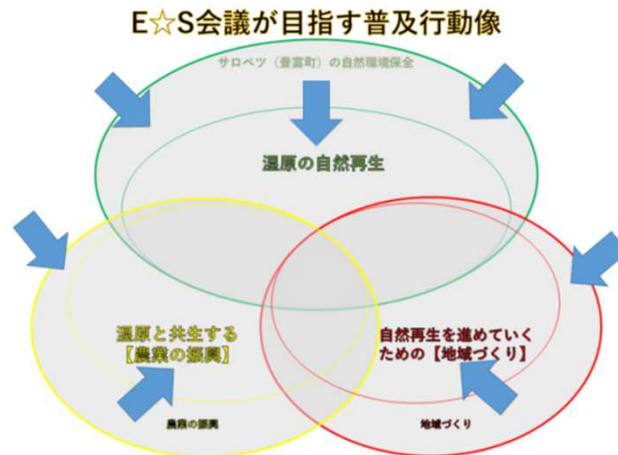
→ディベートの結果、

Bを選択

検討概要

○エコモ一☆サポーター（第6回）

これからの方向性



検討概要

○見直しの方向性（第7回）

これからの方向性

これまでの議論を踏まえた改定骨子を提示した。

- 自然再生に寄与する方向への誘導していくことについて、違和感をもつ意見が出された。
- 立場の違いもあり、自然再生普及活動のイメージを100%一致させることは困難。



**これまでの議論を踏まえつつ、まったく新しい視点から行動計画を策定する。
（一部改定ではなく、白紙から作り直す）**

第3期普及行動計画の基本的な考え方

(1) 目標

①サロベツを好きな人を増やします。

②サロベツを次の世代に伝えます。

第3期普及行動計画では、「上サロベツ湿原の自然再生」という目的は引き続き踏まえつつも、シンプルで誰もが共感しやすい目標を定めることとする。

第3期普及行動計画の基本的な考え方

(2) サロベツエコムーブプロジェクト

従来の普及行動計画においては、個々の活動において自然再生の取組として自己完結することが求められているところがあった。新しい考え方では、サロベツとの関わりを4段階に分け、それぞれのプロジェクトが分担して役割を担うという考え方を取り入れた。

カテゴリー1 サロベツに出会う

カテゴリー2 サロベツを体感する

カテゴリー3 サロベツを理解する

カテゴリー4 サロベツのために行動する

この分類方法でこれまで登録されてきたエコムーブプロジェクトを改めて見直してみると、第1～2回目の検討で自然再生にどのようにつながるのかわからないとされた活動であっても、その多くが新たなカテゴリーに位置づけられる。また、自然再生を伝えて関心を持ってもらった人を次にどのように誘導していくかという課題を抱えていたが、これに対する解決の道も開けてくる。

第3期普及行動計画の基本的な考え方

(3) エコモー☆サポーター

エコモー☆サポーターは、エコメンバーの活動をサポートするためにスタートしたが、実際には再生普及部会の役割を重複して担ってきた。再生普及活動の幅がどんどんと拡大し、自らがエコメンバー的な活動にも取組むようになり、エコモー☆サポーターの負担が拡大する一方で、本来の役割が見えにくくなってきたところがあった。第3期普及行動計画では、エコモーサポーターの役割を明確にして、それに沿って活動する。

役割1 上サロベツ自然再生に対する人々の理解を深める。

役割2 自然再生に取り組む人や団体をつなげる。

役割3 エコモープロジェクトの推進を図る。

第3期普及行動計画の基本的な考え方

(4) その他

① 順応的管理

順応的管理とは、計画における未来予測の不確実性を認め、計画を継続的なモニタリング評価と検証によって随時見直しと修正を行いながら管理するマネジメント手法であり、自然再生推進法における基本的理念である。PDCAの考え方と本質的には変わらないが、第2期普及行動計画においては、言葉が一人歩きしてしまった反省を踏まえ、あえて「順応的管理」とした。

② 様々な人や団体との連携

サロベツを好きな人を増やし、次の世代に伝える活動は、自然再生に限らず、「まちづくり」「観光」「社会教育」などとも共通した目的である。これらの活動団体等と連携を図ることで、相乗効果が期待される。